



西郷南洲翁揮毫

### 「」挨拶

理事長 吉永龍暘  
会長 吉永龍奏

明けましておめでとございます。会員の皆様におかれましては、良いお正月をお迎えの事と存じます。日頃、南洲吟道会のためにご尽力賜り、深く感謝申し上げます。

昨年はコロナも五類と成り、お稽古や発表の場も平常に戻りつつ有ります。皆様も、ご自分の活動の場を見いだす事が出来ていらっしゃるでしょうか？それぞれの局面において、ご活躍をお祈り致します。

当会は、本年五十周年を迎える事となり、四月七日(日)ホテルグランドヒル市ヶ谷において『南洲吟道会創立五十周年記念大会(感謝の集い)』を開催させていただきます。多くの会員各位のお力添えに感謝申し上げます。一月末には、プログラムも完成予定です。引き続き、各々の信念を貫けるべく、また成功に向けて、会員の皆様のご協力の程をお願い申し上げます、成功裏に終わります様、宜しくお願い申し上げます。

新入会員も増え心強く思いますが、不健康のために退会される方も多くあります。「詩吟を吟ずるところ病気無」となるよう努めてまいりましょう。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

### 新設教場ののご案内

#### 鷺宮奏音教場

令和五年九月九日発会式。指導者は吉永龍奏先生、教場は鷺宮区民活動センターです。茂呂真龍さんが開設に奮闘努力されました。

ホームページ検索  
南洲吟道会と入力

### 船橋第二教場

令和五年九月二十五日開設。指導者は斎藤龍優先生、教場はご自宅です。

### 新入会員のご紹介

(前回58号掲載以降分)

武井征樹様 鷺宮奏音教場に令和五年八月四日に入会されました。  
大北正子様 船橋第二教場に令和五年九月二十八日に入会されました。  
市橋富子様 国分寺会に令和五年十一月十四日に入会されました。  
内川研一郎様 習志野会に令和六年一月一日に入会されました。

### ◆令和五年度南洲吟道会夏季吟道温習会

日時令和五年七月四日(火)野方区民ホール  
出席者(敬称略)

吉永龍暘	大橋裕史	横塚克明	渡辺 武
齋藤和吟	中村真吟	長島勝洲	澤口三洲
秋山政洲	中川晋水	小櫻梢水	安齊治水
新妻眞水	大滝和城	春山美城	野澤純祥
吉澤強祥	佐藤千祥	早乙女恵龍	茂呂真龍
手塚憲龍	小室慶龍	戸田進龍	吉澤麗龍
齊藤龍優	山田龍瓔	曾根龍富	稲葉龍誠
大塚龍優	藤田龍香	西谷龍邦	永田龍游
赤池龍徳	安永龍珀	萩野進龍	猪浦龍雅
加藤龍孝	菊田龍瑞	児玉龍智	長友龍瑤
吉永龍奏	(プログラム順)		

\*次項以降、催事参加者の敬称は略します。



◆令和五年度

第五十九回日本コロムビア全国吟詠コンクール東京地区決選会

日時 令和五年七月十七日(祝・月) 午前十時  
会場 板橋区立グリーンホール  
参加者 第一部 足立恵美佳(準優勝) 第三部 中川晋也  
第四部 野澤純子 茂呂肇(第三位入賞) 永田敦子  
応援 吉永龍暘 菊田龍瑞 小櫻梢水

◆日本全国吟詠コンクール東京地区予選会

日時 令和五年七月二十二日(土) 十三時 会場 小松川区民会館ホール  
漢詩・六段以下の部  
中村眞一 安齊治夫 中川晋也 澤口三夫 足立英美佳  
和歌の部  
小櫻梢 岩井ミイ子 藤田幸

漢詩・奥伝以上の部

齊藤小夜子 吉澤強 猪浦雅之 茂呂肇 山田恵美子  
西谷邦江 永田敦子 野澤純子

◎入賞者 東京地区十八名入賞の内、南洲吟道会は五名合格です。

和歌の部 岩井ミイ子 小櫻梢

奥伝以上の部 山田恵美子 茂呂肇 猪浦雅之

審査員・講評 奥伝以上の部 吉永龍暘

「発祥の詩」先導 猪浦龍雅

各部署役員 音響 吉永龍奏 菊田龍瑞 長友龍瑠 小櫻梢水  
舞台 手塚憲龍 中川晋水

応援 児玉龍智 加藤龍孝 佐藤千祥 岩井お嬢様 秋本様

◆令和五年度 伝統文化コンクール

日時 令和五年八月二十六日(土) 会場 野方区民ホール  
参加者 猪浦雅之(優秀賞) 茂呂肇(優秀賞) 永田敦子(優秀賞)  
山田恵美子 野澤純子 吉澤強  
役員 長友龍瑠

◆夏季大学

日時 令和五年八月二十五日(金)～二十六日(土)  
会場 江戸川区総合文化センター  
受講者 吉永龍暘 吉永龍奏 菊田龍瑞 手塚憲龍 長友龍瑠  
加藤龍孝 齊藤龍優 大塚龍優 山田龍璽 秋山政水

◆Kakuyoh-Kai 薩摩琵琶・演奏会&演奏体験 ワークショップ 春

日時 令和五年九月十七日(日)  
会場 TheaterCafe&DiningProscenium 高円寺南  
主催 Kakuyoh-Kai 吉永鶴奏門下生有志  
演目 祇園精舎 月下の陣 蓬萊山 エレキ琵琶他  
ワークショップ 蓬萊山  
応援 吉永龍暘 長友龍瑠

◆令和五年本会秋季昇段審査会

日時 令和五年九月十八日(月) 十四時 会場 白鷺高齢者会館  
審査結果発表

指導局

初段 横塚克吟 初段 渡辺武吟 中伝 秋山政水 五段 中川晋水  
奥伝 小櫻梢城 十段 手塚憲龍 範師 小室慶龍

以上の方々合格されました。ご活躍を祈ります。

◆薩摩琵琶鶴田流 友吉鶴心門下生研修の会 「花一重」

日時 令和五年九月二十四日(日) 会場 鍊仙会能楽研修舞台  
出演者 吉永鶴奏 長友龍瑠  
応援 吉永龍暘 大塚龍優 西谷龍邦 茂呂真龍 伊藤奏轉  
中川晋水

◆長友倫夫リサイタル

日時 令和五年九月二十八日(木) 会場 八王子いちようホール  
応援 吉永龍暘 吉永龍奏 手塚憲龍 西谷龍邦 大塚龍優  
稲葉龍誠 山田龍璽 齊藤龍優 吉澤強祥

◆東京地区連合会 吟詠フェスティバル・壮心の集い

日時 令和五年十月八日(日) 十時三十分 会場 小松川区民館  
 独吟 児玉龍智 菊田龍瑞 永田龍游 西谷龍邦 山田龍璽 齋藤龍優  
 小室慶龍 茂呂真龍 野澤純祥 小櫻梢水 中川晋水  
 連吟 「山中の月」 菊田龍瑞・茂呂真龍  
 「日本を愛す」 加藤龍孝(欠席)・齊藤龍優  
 詩舞 「楓橋夜泊」 吟・菊田龍瑞 舞・西谷宗苑  
 歌謡吟詠 「山行」 女子 「武田武士」 三田・琵琶小櫻場梢  
 役員 吉永龍奏 長友龍瑤 応援 吉永龍陽 大塚龍優



歌謡吟詠「山行」 南洲女子



「楓橋夜泊」吟・菊田龍瑞 舞・西谷宗苑



「武田武士」吟・茂呂真龍・中川晋水  
 琵琶・小櫻場梢

◆令和五年度日本吟道全国吟詠コンクール&第27回日本吟道名吟大会

日時 令和五年十月十二日(木) 会場 川口総合文化センター・リリア  
 全国十一地区で予選を通過された九十四名代表吟士の方々が日頃の鍛錬の成果を十分に発揮されました。当会から五名が東京地区代表で出演。  
 漢詩奥伝の部  
 茂呂肇「大楠公」 山田恵美子「母を奉じて嵐山に遊ぶ」(第六位)  
 猪浦雅之「九月十三夜陣中作」  
 和歌の部  
 岩井ミイ子「心なき」 小櫻梢「白鳥は」  
 名吟大会 特別構成番組 朗吟讃歌  
 「終始一貫」 日本吟道四冠吟士権者として菊田龍瑞出演  
 皆様の活躍に感謝致します。(龍陽)



コンクール6位入賞 山田恵美子さん



岩井ミイ子さん

◆第60回国分寺市民文化祭吟詠剣詩舞大会

日時 令和五年十月八日(日) 会場 国分寺市立いずみホール  
 参加者 安齊治水 春山美城 岩田幸祥 吉澤強祥 杉本陽祥 佐藤千祥  
 手塚憲龍 猪浦龍雅

◆玉龍吟道会創立四十五周年記念吟道大会

日時 令和五年十月九日(祝・月) 会場 和光市民文化センター  
 出席者 吉永龍奏「春日の局」

◆訃報 森豪神先生

令和五年十一月八日、日本吟道学院最高顧問・森豪神先生が八十五歳で肺炎でご逝去されました。謹んでご冥福を心よりお祈り申し上げます。  
 当会へ五十周年のお祝辞を十一月二日にお書き頂き、十一月七日に着きました。それなのに信じられませんでした。先生の教えを心に留め、吟道普及に全力で努めます。先生ありがとうございました。告別式は十三日、梅檀会館にて執り行われ、大宮聖苑にて茶毘に付されました。理事長・吉永龍陽、副会長・菊田龍瑞、藤田龍香が参列致し、南洲吟道会一同と吉永龍陽・龍奏連名にてお生花をお供え致しました。

### ◆南関東地区指導者講習会

日時 令和五年十一月二十三日（祝・木） 会場 小松川区民館  
 出席者 吉永龍暘 吉永龍奏 菊田龍瑞 猪浦龍雅 永田龍游 山田龍璣  
 内容 「吟道・ひとかたに・憂きことの・希望・不動の心・水五則」

### ◆Kakuyoh-Kai 薩摩琵琶・演奏会&演奏体験 ワークショップ冬

日時 令和五年十二月三日（日） 十三時開演  
 会場 crotchet / cafe(東京・阿佐ヶ谷) ネコビル

《演奏曲目》 蓬萊山・坂本龍馬を思う・薩摩琵琶弾法他

《ワークショップ》 祇園精舎 《エレキ琵琶》まついえとこ

応援 吉永鶴暘・茂呂真龍・秋山政水・中川晋水

出演 吉永鶴奏・小櫻暘梢・松井奏悦・伊藤奏轉・坂本奏白・羽田遥

### ◆琵琶の會 第四回時分の花 吉永鶴奏

日時 令和五年十二月十七日（日）会場 東京青山鍊仙会能楽研修所能舞台  
 曲目 琵琶／蓬萊山（合奏） ・大楠公 吟／東照公遺訓他

### 教場だより

今、船橋教場を語る時に思うこと

船橋教場 加藤龍孝

船橋教場は吉永洲神先生のご指導を受けました。「吟道精神」吟道は・・・と力強く、全員が一斉に朗唱で始まります。昭和六十年秋です。

私は札幌の旭松流会でも中伝まで学び、夫の転勤で船橋に住むようになり、偶然、吟道学院の教典を書店で手にし、本部に問い合わせると、船橋教場があり、指導者が吉永洲神先生であることが分かりました。早速尋ね、2名（故川口清嘉さんと私）が入会しました。当時の会員は少なく、おそらく5人ほどでした。昭和六十一年、昇段審査を受け、初伝からスタートし、正式に南洲吟道会の会員になりました。その後、南洲吟道会と本部主催の事



船橋教場①



船橋教場②



船橋教場③

業、研修、講習、発表会などに参加し、長い年月が過ぎました。時間と共に、素晴らしい先輩方や仲間にも恵まれ、育てられて現在に至っております。師範になり、西船橋教場を開設しました。千葉に次々と愛吟者も増え、二俣、習志野、湊、小林教場と次々に開設が続きました。

洲神先生、龍暘先生、龍奏先生といった素晴らしい先生方のもとで、本当に充実した格調高い吟詠を学び、吟界で羨ましがられる事しきりでした。また、多くの先輩方との別れにも遭遇し、それを通じて「人の道」を学ぶ重要性を心に刻んでいます。

洲神先生の指導には「未働委縮」「過働委縮」との言葉で、「よく考えて取り組まねば」との教えがあり、教室では日本国の素晴らしさや、吟題の意味、歴史的背景、人物の立場など、資料なども学びながら、毎回、深い学びのある時間を過ごしていました。休んだら損!! といつも思いました。終了後は必ず、酒吟飲食会が開かれ、楽しく真顔と笑顔のあふれる会になりました。素朴な質問や体験談があり、カラオケもあり、最高の解放された雰囲気、船橋教場になっていました。幸せな船橋教場での日々感謝し、これらの思い出を大事にしたいと思えます。

次代に引き継ぐため、二俣教場の 齊藤龍優さんにバトンを渡します。

## 今の船橋教場に合流した二俣教場は

船橋教場 齊藤龍優

平成三年二月に二俣教場が発足しました。

陸・海・空の自衛隊、労働省、総理府の官舎が32棟あり、幼稚園、小学校も敷地内にありました。その官舎集会所に洲神先生、龍陽先生がいらっしゃり、龍陽先生の祝吟を聞いて感動したことを思い出しました。

官舎の各棟階段入口に募集のチラシを貼りました。単身者や子育て中の方が多く、集まったのは6人からのスタートでした。

初代指導者は、雲瀬先生。一年で転勤になり、その後は吉永龍奏先生（当時お嬢様先生）。結婚により通えなくなり、加藤先生に引き継がれました。次に加藤先生のご主人の転勤で洲神先生の船橋教場に移籍になりました。

お稽古の後に、お食事会や飲み会と洲神先生を中心にしての和やかなひと時が懐かしく思い出されます。その後、広瀬先生、現在加藤先生です。気が付けば、二俣教場出身は私一人になっていました。

令和五年十月より船橋第二教場が誕生しました。感謝です。次につなげます。会員募集中です。

## 会員だより

無題

龍陽会 西谷龍邦

『言うべきときを知る人は、また黙すべきときを知る』。小学校卒業時に担任の先生がクラスの全員に、それぞれに合った言葉を贈りました。これはその時、私に下さったものです。

病弱だった私は、思っていることを口にする前に周りが気をきかせ、処理をしてみましたので、言葉に出したり、行動したりする事があまりありませんでした。仲良しの仲間と遊ぶときも、声を出さずとも楽しかったです。何十年も続く友達から「邦江ちゃんはまだ話さなかったよネ」と、言われたこともありました。時を同じくして、ご近所の方から「詩吟の教室を始めたいので、見学にいらっしやいませんか」とお声がけをいただいていたから、三十三数年お稽古を続けています。大きな声を出すことで、気分が爽快になり、思

っている事を口に出す楽しさも知り、今に至っているのだと思います。

前出の言葉を下さった先生、音痴の私を根気強く指導してくださる吉永先生に感謝しつつ、残りの青春を、快適で充実した人生を過ごして行きたいと思っております。

## 令和五年日本吟道全国大会

吟行研修会ごぼればなし

龍陽会 永田龍游

若きらに おさな混じりて ひたむきに

「さくら」吟唱 ミルハスの杜

於 あきた芸術劇場ミルハス

猛威を振るったコロナ騒動も漸く下火となり、全国大会が秋田で開催されました。「待ってました!!」とばかりに、全国から馳せ参じた吟友は総勢五百名、秋田杉の香り残れる“あきた芸術劇場ミルハス”は曲線美の優雅な立派なホールで嬉しくなりました。

オープニングショーは伝統ある郷土芸能・ユネスコ無形文化遺産にも登録されている「なまはげ太鼓」。此の大会に参加する楽しみの一つでもありましたが、受付係を仰せ付かり、小室慶龍さんと二人、背中に幽かな太鼓の音を憾めしく聴くこととなりました。しかし、受付を無事終了し、会場に入り、青少年コーナーの見事な吟詠を聞いた途端、心が洗われたようで、「なまはげ太鼓」のショーが見られなかった口惜しさも吹き飛びました。舞台一杯に並んだ秋田吟道会の児童クラブの少年少女達が「芳野に遊ぶ」「さくらさくら」と八本の澄んだ吟声をホール一杯に響かせました。その真直ぐで爽やかな姿に満場の拍手と喝采。将に、吟じ終わりに清風起こる、です。プログラム記載通りの「秋田に輝く未来の星々」でした。

三年ぶりの地方大会とあって舞台・客席共に熱気に溢れ、予定通り、万歳三唱で無事終了となりました。バスで花巻温泉・結びの宿愛隣館へ移動し、打ち上げ。大宴会はいやが上にも盛り上がり、ファイナーレでは全員が日吟音頭

の踊りの輪の中に笑顔で揃いました。

さて、最終日は五台もの大型観光バスを連ねての吟行研修会です。里深い風光明媚な溪流沿いにある愛隣館を後にして、バスは東北道に入ります。ベテランのガイドさんは待つてました、とばかりに郷土の誇り、大谷翔平選手の話題一辺倒となりました。暫くして、左手に見える低山の中腹に鮮やかな新緑の芝が見えました。広いグラウンド、何かのコートらしきものも散見されます。数棟の校舎と思える建物は瀟洒な感じで、その白さが目立っています。「これが、今、世界中の人達の注目の的、大谷翔平選手の出身校・花巻東高等学校です。皆さん、写真は撮り終わりましたか？」とガイドさんの問いかけにOKサインが出ると、超ノロノロ運転だったバスもスピードを上げました。しかし、大谷翔平選手の話は尽きることがありません。「本当は、ここで宮沢賢治記念館のお話をしなければいけないのですが・・・」と言いつつもガイドさんは相変わらず翔平選手の話題です。翔平選手の命名には、最初父上が奥州地方で最も尊敬されている日本人である歴史的にも有名な武将の名を考えていたようです。しかし、祖父上が過去の歴史上活躍した人物であっても、その偉業は限られたものになるため、「翔」という字のもっとも大きく、自由に大空を羽搏くような感じが良いのではないかと、との考えから「翔平」に決定したそうです。私は、この話にとっても感銘を受けました。過去を土台にして未来に大きく羽搏く、高い見識をお持ちのご家族に生まれ、愛され、世界中から尊敬・称讃をうける大リーガーが誕生したのだと思えました。今や、その翔平少年は全世界が熱狂する野球界の雄となり、ご家族の期待の応えた人物となりました。

やがて宮沢賢治記念館に到着し、この話題は終了となりました。

前人未到の記録を次々と打ち立てる天才大リーガーとして、世界中の人々から愛される大谷翔平選手は日本の誇りです。百年後には奥州が輩出した天才・偉人として宮沢賢治と並び称されることでしょうか。若葉の季節に訪れた東北地方での三日間はとても有意義で楽しいものでした。お世話になりました。皆々様に心より感謝申し上げます。

## 今後の総本部及び本会の主な催事予定

### ◆第五十九回日本吟道青少年吟道大会&壮心の集い

日時 令和六年三月二十三日(土) 会場 タワーホール船堀小ホール

### ◆南洲吟道会創立五十周年記念大会(感謝の集い)

日時 令和六年四月七日(日) 会場 ホテルグランドヒル市ヶ谷

大会参加者はリハーサルにご出席下さい。欠席者は指導者にご連絡を。

- ・第一回リハーサル令和六年二月二十五日(日) 十三時 白鷺高齢者会館
- ・第二回リハーサル令和六年三月十七日(日) 予定 十三時 白鷺高齢者会館

### ◆第七十四回日本吟道全国大会

日時 令和六年五月二十四日(金) 会場 江戸川区総合文化センター

### ◆その他、六月迄の本会の予定

東京地区講習会参加 令和六年二月十日(土) 会場 小松川区民館

春季昇段審査会 総会

## 編集後記

会員の皆様、新年おめでとうございます。

四月には南洲吟道会の一大イベント創立五十周年記念大会があり、それに向けてお稽古に励んでおられることと思います。日頃の成果を十分発揮して、大いに活躍していただきたいと思えます。

昨年は今迄になかった様な災害や事件が数多くありました。本年は世の中が安定し、安居楽業が夢のまた夢ではなく、長楽萬年の一年でありますよう念じております。

向寒の時節、皆様には健康に配慮して、お過ごし下さいますようお願い申し上げます。(広報局)

広報局長	手塚憲龍	記録部長	稲葉龍誠
広報部長	萩野進龍	編集部長	佐藤千祥
HP担当	菊地務		